

講義科目名称： エンドオブライフケア論

授業コード： 2230501100

英文科目名称： End-of-Life Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	看護師課程選択必修
担当教員			
◎小長谷百絵、山田恵子、関睦美、東條紀子、石岡幸恵			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 後期</p> <p>【授業時間】 15時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】 ①小長谷 百絵 山田 恵子 関 睦美 東條 紀子 石岡 幸恵</p> <p>【研究室】 213 215 301 308 310</p> <p>実務経験のある教員が担当します。</p> <p>【本学の科目区分】 専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】</p> <p>○ ◎ ○ ○ ○</p>
------	---

到達目標	<p>1. 患者・家族支援を重視した医療と生活を統合したエンドオブライフケアの概念を説明できる。</p> <p>2. エンドオブライフを生きる人の病の苦痛や苦悩、生活背景に根差した生きる価値や希望、他者との関係性などの理解を深め必要な個別ケアについて述べるができる。</p> <p>3. エンドオブライフを生きる人を取り巻く家族や社会の包括的なシステムの中で患者にとっての最善を尽くすアプローチを説明できる。</p> <p>4. エンドオブライフケアの事例から自身の死生観を意識化しいのちについて述べるができる。</p> <p>5. エンドオブライフに向き合う患者に関わる自己の態度の醸成に向けエンドオブライフケアに対する考えを表現できる。</p>
授業概要	<p>エンドオブライフケアの概念理解と小児・成人・老年期と発達段階に応じたエンドオブライフケアについて、その実践に関する知識・技術について学ぶ。また、自己の死生観を見つめなおし、自らの考えを意識化することや、対象者の多様な生き方や選択を支援する方法について検討する。</p>
授業計画	<p>1-2 エンドオブライフケアとは、高齢者におけるエンドオブライフケア</p> <p>1. 人が生きるとは、死ぬとは</p> <p>2. 死を取り巻く社会状況</p> <p>3. 看取りの場の広がり</p> <p>4. 終末期のプロセス</p> <p>5. 意思決定の支援</p> <p>6. 臨死期に求められる援助</p> <p>備考：小長谷 東條</p> <p>3-4 子どもと家族がよりよく生きるためのエンドオブライフケア</p> <p>1. エンドオブライフケアの対象となる子どもと家族の特徴</p> <p>2. 子どものエンドオブライフケアの構成要素</p> <p>3. 子どもの最善の利益を考えた他職種チームアプローチとグリーフケア</p> <p>備考：山田</p> <p>5-6 病とともに生きる人のエンドオブライフケア</p> <p>1. 全人的苦痛を持つ患者家族の看護</p> <p>2. 終末期における患者家族の特徴と看護援助</p> <p>3. アドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の役割</p> <p>備考：石岡</p> <p>7-8 地域で暮らす療養者と家族へのエンドオブライフケア</p> <p>1. 在宅での看取りと、家族への支援</p> <p>2. 在宅ケアチームにおける他職種連携</p> <p>3. ケアマネジメント、看護支援計画の検討</p> <p>備考：関</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：必要時どこカレに掲示する。</p> <p>事後学習：授業内容から自らの看護体験を振り返る。</p>
評価方法、評価基準	<p>課題レポート100%：到達目標1-5について、授業回数8回のうち、1,2回を25%、3,4回を25%、5,6回を25%、7,8回を25%として到達度を各担当教員が実施し、その後、総合評価をおこなう。</p>

必携図書	資料等は, 必要時配布する.
参考図書・資料等	谷本真理子, 増島麻里子, エンドオブライフケアその人にとっての最善をめざして, 南江堂 (2022) 長江弘子, 看護実践に活かすエンド・オブ・ライフケア, 日本看護協会出版会 (2018) 浅見洋, 他. エンドオブライフケア学” 自分らしく生きる” 哲学, 日本看護協会出版会 (2024)
受講、課題、資料 配布等のルール	欠席の場合は、担当教員へメールで連絡する。
教員からのメッ セージ	皆さんと「生きる」を支えるについて考えていきましょう。
オフィスアワー	